



**mameCoin**

**現状の暗号資産およびイーサリアムの問題点  
そのmameCoinによる解決方法**

**2020.5.18**

**PT mameCoin Indonesia**

# 目次

1. 現状の暗号資産の問題点
2. イーサリアムの問題点
3. mameCoinによる解決方法
4. Gloloveの仕様変更
5. Team
6. Company Information



# 1. 現状の暗号資産の問題点

- 価格のボラティリティが高いため送金や決済には向いていない
- ビットコインおよび主要アルトコイン以外の暗号資産は売買できる取引所が限られており、また売買できたとしても取引量が少ない
- 無から作り出したトークンに無理やり価値をつけようとしているため最初から論理が破綻している
- ユーティリティトークンが本来の使いみちではなく投機家のおもちゃにされている



# 用語解説

【価格のボラティリティ】価格が短時間に激しく上下に動くこと

【無から作り出したトークン】トークンは無料でいくらでも発行できるため、トークン価値の担保が必要

【ユーティリティトークン】サービスの使用に用いられるトークンで本来投機に利用されるものではない



## 2. イーサリアムの問題点

- スマートコントラクトプラットフォームとしては最も実需の高いコインであるが、スケーラビリティが皆無で実用的なアプリケーションに使うことは不可能
- イーサリアムの価格が高すぎるためにオンチェーン処理はガス代がネックになり、ほとんどの処理をオフチェーンで行うという本末転倒なことになっている
- さらに価格のボラティリティのために毎月のガス代コストを算出することもできない



# 用語解説

【スマートコントラクト】ブロックチェーン上で実行されるプログラム

【スケーラビリティ】大量のアクセスに対応できる能力

【オンチェーン】スマートコントラクトを実行し結果をブロックチェーンに記録する

【オフチェーン】非公開のプログラムをサーバー上で実行し、結果を非公開のデータベースに記録する

【ガス代】送金およびスマートコントラクトの実行にかかる追加料金



### 3. mameCoinによる解決方法

- 寄付用途のためには価格のボラティリティを持つべきではない
- 流動性を考えると入金と出金は法定通貨であることが望ましい（暗号資産が寄付に使われるのは遠い未来）
- 無から作り出したトークンは本質的に無価値である
- スケーラビリティのあるスマートコントラクトプラットフォームが必要である
- できるだけオンチェーン処理が望ましい
- ガス代は定額またはゼロであることが望ましい



# 3. mameCoinによる解決方法

1. mameCoinのステーブルコイン化
2. PoAを使った独自ブロックチェーン
3. ガス代が不要
4. mameCoinのスマートコントラクトプラットフォーム化
5. オンチェーンを使った本来のブロックチェーンの使い方





# 用語解説

【ステーブルコイン】コインの価値が法定通貨で担保されている。時価総額と同量の法定通貨が必要。最もよく使われているのがテザー（USDT）でUSドルで担保されている。



## 3.1 mameCoinのステーブルコイン化

- 現在の市場価格を考慮し1MAME=Rp 0.1固定にする
- 将来的には1MAME=Rp 1を目指したい
- 出金時には法定通貨に換算し銀行振込を行う（インドネシア国内の銀行のみ）
- ステーブル化後は入金された法定通貨を新規トークン発行の担保とし発行枚数の上限を撤廃する



## 3.2 PoAを使った独自ブロックチェーン

- PoA (Proof Of Authority) とは決められた承認者がブロック生成の承認を行うコンセンサスアルゴリズム
- PoW に比べて遥かにエコで承認時間が極めて短い
- ブロック承認者は身元がしっかりしている
- 我々のレシピエントが承認者になることでコンソーシアムチェーンを構成可能
- イーサリアムとの完全互換性



# 用語解説

【PoW】マイナーが計算競争をして一番最初に問題を説いたものが報酬を受け取る。大量の電力を消費する。

【PoS】残高が多いマイナーが優先して報酬を受け取る。持てるものと持たない者の格差が広がる。発行量に制限がないものはインフレ通貨となり価格を下げる要因になる。

【PoA】指定された承認者がブロックを承認する。承認者の役割はブロックチェーンを適切に維持することなので、報酬はなくても構わない。



# 用語解説

【コンソーシアムチェーン】一つのブロックチェーンを管理する団体が複数いること。誰でもブロックチェーンを管理できるパブリックチェーン（非中央集権）、組織の内部でのみ使われるプライベートチェーン（完全中央集権）の中間に当たる。高い透明性と安全性を保持しながらスケーラビリティがあるコンソーシアムチェーンがブロックチェーン社会実装のための理想形と考える。



## 3.3 ガス代が不要

- PoA を使った独自ブロックチェーンを構築することでガス代をゼロにできる
- ガス代がゼロになれば送金時に悩むこともないし、Dappsを作りやすくなる



# 用語解説

【Dapps】スマートコントラクトを利用した非中央集権な分散型アプリケーション。従来のアプリケーションのような中央管理者が存在しなくても自律的に動作するのが特徴。



## 3.4 mameCoinのスマートコントラクトプラットフォーム化

- イーサリアム上の1トークンにすぎなかったmameCoinがイーサリアムと同等の機能を持つようになる
- たとえば独自トークンを発行して電子マネーとして使ってもらったり（ガス代が不要のため使いやすい）、スマートコントラクトを発行することが可能
- DEXやBaaSサービスを将来的に展開することが可能





# 用語解説

【DEX】非中央集権の取引所。個々が管理しているウォレット内の暗号資産をスマートコントラクトを利用して自動的に売買するため、安全性が高い。

【BaaS】ブロックチェーンとスマートコントラクトを月額課金または従量課金で利用できるサービス。初期費用と自前のサーバー管理が不要になるため利用したい企業にとっては使いやすい。サービス提供者としては毎月の固定収益が得られるため収益が安定化する。



## 3.5 オンチェーンを使った本来のブロックチェーンの使い方

- オフチェーンで処理していたものをブロックチェーン本来のオンチェーン処理にできる（ガス代やスケーラビリティの問題がなくなるため）
- 少額送金（チップ）の履歴もブロックチェーンに記録されるため寄付の透明性が担保される



## 4. Gloloveの仕様変更

1. 入金について
2. mameCoin購入について
3. 出金について
4. チップについて
5. 寄付について
6. 残高について
7. 長期保有ウォレットについて



## 4.1 入金について

- Gloloveに入金されたmameCoinは新しいmameCoinに  
スワップされます



## 4.2 mameCoin購入について

- Glolove上でmameCoinを購入することができます
- 支払い手段は、e-wallet (OVO、DANA、LinkAja) 、銀行振り込み (バーチャルアカウント) 、コンビニ払い (Alfamart) 、クレジットカード決済
- 1MAME=Rp 0.1です
- 決済手数料を差し引いた金額分のMAMEが各自のウォレットに入ります



## 4.3 出金について

- **mameCoinを外部送金することはできません**（イーサリアムのパブリックチェーン（MyEtherWallet、MetaMask、HB Wallet等を含む）に向けて送金すると消失してしまうため、そのミスを避けるため）
- **インドネシア国内の銀行に送金できます**
- **インドネシア国外への送金はpaypalを使用予定です**



## 4.4 チップについて

- チップ送金履歴もブロックチェーンに記録されます
- メッセージ付きチップ送金の場合、メッセージも含めてブロックチェーンに記録されます



## 4.5 寄付について

- 寄付履歴は送り元、送り先を含む寄付証明書発行に必要なすべての情報がブロックチェーンに記録されます
- 寄附金額の10%をGloloveが徴収します
- 5%のバーンはなくなります





# 用語解説

【バーン】発行済のトークンの一部を焼却して総発行枚数を減らすこと。そのトークンの希少性が高まるが、ステーブルコインでは価値の担保がされているため不要。



## 4.6 残高について

- 各ユーザーの残高はそれぞれ個別のウォレットとしてブロックチェーンに記録されます
- これにより高い透明性と安全性を持ちます



## 4.7 長期保有ウォレットについて

- ステ이블コイン化に伴い利息がつかなくなるため、誠に申し訳ありませんが、長期保有ウォレットは撤廃されます



# 5. Team



**Sendy Ariani**  
**CEO**

ゲナダルマ大学情報工学部卒業。幼少期より歌手としての才能を発揮し、数々の賞を受賞。現在は、インドネシア大衆音楽“ダンドゥット”の歌手として広く芸能活動中。自身のボランティア活動の経験からブロックチェーンを活用した新しい寄付のアイデアにたどり着き、PT mameCoin Indonesia Berbagiを設立。パブリックコミュニケーションのスペシャリスト。



**Heraldo R.M. Kalangit**  
**COO & Komisaris**

ビナヌサンタラ大学情報工学部卒業。ピーサポートのスタッフとして、世界中を長期間回る。インドネシア帰国後、日系企業にてプロジェクトマネージャ・通訳者としてシステム開発に従事。インドネシア語・日本語・英語すべてをネイティブレベルで扱い、インドネシアと日本の架け橋となるべくPT mameCoin Indonesia Berbagiに参加。オペレーションのスペシャリスト。



## 6. Company Information

- **Name: PT mameCoin Indonesia Berbagi**
- **Established: 2018 August**
- **Address: Epicentrum Walk Level 3, Unit A 306 - 307, Jl. HR Rasuna Said, Kuningan South Jakarta, Indonesia**
- **URL: <https://mamecoin.id/>**

